

平成14年(2002年)3月15日発行

学位取得おめでとう

実社会での大いなる活躍を!!

贈る言葉

卒業生諸君、おめでとうございませう。ご家族のお喜びは如何にばかりでしょうか。心から祝福を申し上げます。卒業旅行先の伊豆から「長い間ありがとうございました」という葉書が着いたと見せて下さった。ご両親の笑顔が忘れられません。

乱れかけている社会を あるべき軌道にのせよ

親しい間柄でも、きちんとお礼をするのが社会人のマナーの第一歩です。このような当たり前のことを述べるのは、不況が長く続き、心まで貧しくなったのか、国の内外を問わず、倫理が乱れてきたように感じられるからです。

例えば、同一の企業が、一年半の間に牛乳の集団食中毒事

作したのだと報道されています。

「A全農では、このような事件が一度と起きないよう、農畜産物に産地、生産者、肥料と飼料の種類と量を明記する方針を打ち出しました。しかし、いかに厳しい規制を設けても、担当がそれを守らなければ何にもなりません。また、全米第七位の売上げを



神馬 敬学 敬長

件と輸入牛肉を国産品に偽装する事件を起こし、再建不能となりました。事件の端緒は牛乳の加熱処理施設のバルの洗浄がマニュアル通りに行われていなかったこと。黄色ブドウ球菌が繁殖し、中毒患者一万数千人を出す大事件となって、売上げが大幅に低下し、在庫を減らすため輸入品を国産品に偽装し

誇つていたエネルギー卸売り会社も、薄利取引が失が覚悟して経営破綻し、グローバル・スタリタード目撃して、その透明性が喧伝された米国の会計システムに対する不信感を生じています。せっかくのシステムも運用に人を得ないまま生きてこないという事です。

小淵副総理大臣の諮問を受け、た教育改訂国民会議の報告書では「教育の原点は家庭にある」と言い切っています。人が事の是非を判断する倫理観の骨組みは家庭の垣根の中のものにしが基本となり、学校や社会での訓練がこれに肉付けするという考え方を。

本学は「実学を標榜する技術教育の場」であり、企業出身

の教員が講義の合間に元の職場での経験を語り、「技術開発と独創・感性」や「産業論II」の講義に各分野の有識者を講師にお招きして、その学生を広い視野の技術者に育てたいという教育方針の表れです。平成十四年度から学生の倫理観を養い、自律性を培う科目「産業倫理」が新設されました。

本学の建設時、一面の田園であった校地から、天神様の祠が示現する慶事がありました。祠を祭る天神宮の例祭には学生代表も参拝します。校地の産土(うぶすま) 神、天神宮の例祭は祖先を敬う気持ちの表れです。

「家族の愛情に包まれて育ち、産土神を祭る日本工業大学に在る」に、乱れかけている社会を正す役目も期待されています。長期の不況の中、学費を果敢と諸君に洋を待たして未来を開く、早く良い伴侶を得て明るい家庭を築き、母校と緊密な連絡を保つて活躍されることを祈念して卒業の日の言葉とします。

情報工学科の青木・大木・片山の三先生が私大情報教育協会で論文奨励賞を受賞

情報工学科の青木取講師、大木幹雄助教授、片山茂友教授が、私立大学情報教育協会主催の第9回情報教育方法研究発表会において「Webを活用したプログラミング授業支援の試み」の論文で奨励賞を受賞した。同論文は、従来のWebを用いたプログラミング教育で生じる問題点の解決に向けた教育システム「Web A.S.I.S」を提唱し、その

いたプログラミングが容易になり、かつ教員側からはUNIXシステム教育の手間を省き、コンピュータの稼動状況や学生のコンピュータ使用回数チェックが容易になる等の効果をもたらす点を挙げていた。これによって、プログラミング教育はより効率的に行われ、学生の習熟度も一段と増していくことになる。

10年に及ぶ横谷研究室の基礎研究が大きな成果を

前身で知られた、機械工学科・横谷真一郎教授の基礎研究に基づく世界初の「連続鋳造用旋回流ノズル」製鉄技術が、2月13日、経団連会館で行われた記者会見で発表された。実用化の運びになった。

会見には、共同研究者である大阪大学・原教授の一方、加えて当シリーズに早く着目、産学協同開発を推進してきた住友金属工業(株)の西澤常務ららに九州耐火(株)の高橋専務らが同席。この画期的な技術開発は、さっそく翌日マスコミ各紙によって報道され、大々的に関心を集めた。

▲経団連会館での記者会見風景。左より技術内容の説明する住友金属の担当技術者、九州耐火(株)の高橋専務、横谷教授、住友金属の西川常務、及び大阪大学の原教授。

ちなみに開発されたノズルを採用すると、従来の鋳造設備を用いた鋳造速度を20〜30%アップした場合でも、従来法と比較して不良発生率は4分の1と大幅な品質向上を達成。そのため将来的には、同一鋳造設備に生産性を倍増させることを目標に、さらなる開発が推進されていくと見込まれる。

なお旋回流は、単に浸漬ノズル内に付着するだけで、何ら追加の設備や投資や電力消費を要することなく位置エネルギーを利用して下方に流下する溶湯に旋回流の付与が可能。よって、これは低コスト・省エネルギーという点でも画期的な技術であり、他の金属の鋳造プロセスにも転用可能である。

産学協同研究の成果が待望される中、横谷教授に次ぐ研究を期待したい。

若杉抄

予定した方角には決して事態が運ばないという意味で、よく人生を、あの不規則に転がる積り球のラビリ



変化の時こそ「基本」の確認を!

理事長 大川陽康

晴れての学位取得、まことにめでとございませう。思うに、もつと社会の第一線に旅立つ諸君は、大きな時代変化と稀にみる不況下の就職活動で、たいへんな苦闘を強いられたいものと存じます。しかし、「若いときの苦労は買ってでもせよ」といわれます。い、その苦闘のなかで感取った思いは、必ずや今後の人生に貴重な糧になるであらう。

あえて、つまびらかにするまでもなく、諸君を待ち受けている実社会は、いま大きな変革期にさなかに入ります。しかし私が幾の言葉として申し上げたいことは、「変化の時こそ「基本」に忠実であれ」ということとであります。

例えば、諸君がこの四年間に修得した知識や技術は、急激な進歩のなかで、十年と持たないかもしれませう。けれども、学問的な基礎知識や問題解決の方法論といったものは、いかなる時代にも通用する普遍的なものである。決して時代変化に左右されるものではありません。従いまして、もしカベに突き当たったり、自分の知り得ない事柄に直面した際には、一度、基本に立ち返り、改めてこの本質や現象を冷静沈着に見つめ直すことが、最も理に合った取り組みの姿勢なのであります。

本学園は、五年後に創立一〇〇周年を迎えます。その際には、大いに美酒を酌み交わしましょう。

連続鋳造用旋回流ノズルを世界で初めて開発・実用化!



▲経団連会館での記者会見風景。左より技術内容の説明する住友金属の担当技術者、九州耐火(株)の高橋専務、横谷教授、住友金属の西川常務、及び大阪大学の原教授。

▲経団連会館での記者会見風景。左より技術内容の説明する住友金属の担当技術者、九州耐火(株)の高橋専務、横谷教授、住友金属の西川常務、及び大阪大学の原教授。

▲経団連会館での記者会見風景。左より技術内容の説明する住友金属の担当技術者、九州耐火(株)の高橋専務、横谷教授、住友金属の西川常務、及び大阪大学の原教授。

機械工学科

平成
十三年
度

卒業生一覽

3月20日付
確定者

電気電子工学科

建築学科

システム工学科



情報工学科

大学院工学研究科修了生

●博士前期課程

【機械工学専攻】

【システム工学専攻】

【電気工学専攻】

【情報工学専攻】

●博士後期課程

【機械工学専攻】

【電気工学専攻】

【システム工学専攻】

【建築学専攻】

◎学位記授与式

3月20日(水)

◆インターネットのURLが刷新されました。

平成14年度 入試状況分析と次年度への対策

全学一丸の募集活動態勢を!!



玄関ロビーから入試会場に向かう受験生

平成14年度入試日程が2月21日の一般入試合格発表を経て一通り終了した。昨年度入試に引き続いて極めて厳しい環境のなかでの入試に終結したと言わざるを得ない。

別図として過去5年間の入試種別ごとの志願者数推移を掲げた(AO入試は平成13年度からの実施。全体でみると、この5年間で約1000名の志願者を減らしたことになる。

特に推薦A方式に注目し

たい。推薦A方式はいわゆる「指定校・指定学科制」であり、この枠に基づいて出願があれば、特別の理由がない限り、合格が約束されるものである。出願者数だけをみれば、5年間でさほどの変動はみられない。今年度は逆に増加した。しかし問題にすべきは指定枠数に対する出願率である。平成10年度には9割を越えていたものがその後、年を追うごとに減り続け、今年度は実に6割を割り込んだ。各大学ともやっとなつて高校に指定枠を増やしている。高校によつては指定枠がだいぶ指定枠をすて満ちただけの大学進学希望者が見当たらないというまさに大学入試時代を物語の現象がすでに現れている。

したとおり出願があれば合格が保証されている。それにもかかわらず出願率が減少しているのは、学生募集における大学の競争力が低下傾向にあると見る。きたろう。推薦A方式の出願率上昇を来年度募集活動の一つのテーマとしたいと考えている。

来年度の募集活動計画を別表に掲げた。活動対象の重点を①高校の進路指導部②本学卒業生の工業高校の先生方③高校生自身とその保護者の3点に置いてそれぞれ効果的なものになるよう心がけていきたい。また、地域的な特性や実施時期などにも細心の目配りをして実効性の上がる展開を目指す。

留学生別科日本語研修課程の修了式が
なごやかなムードのなかで挙行される

すっかり春めいた3月1日、学生会館にて、平成13年度「留学生別科日本語研修課程」の修了式が挙行された。

式は、まず神馬学長より修了者32名に修了証書が授与され、次いで同学長、ならびに大川理事長の祝辞。そして修了生代表の翁林玲(おう・りんれい) [写真] さんと一同への記念品リストが渡され、さらに在校生代表の劉志国(りゅう・しこく) 君が送辞を贈るなどして、1年間の勉学の労をねぎらった。

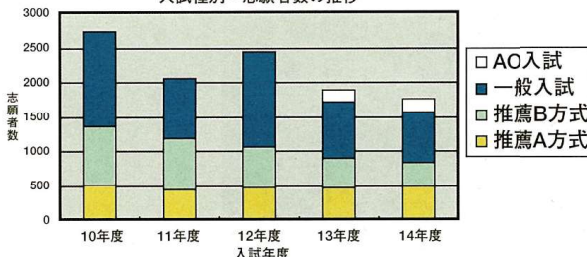
なお、修了式終了後は、恒例の祝賀会が催され、指導に当たられた諸先生方を囲んでのなごやかな交歓風景が展開された。とまれ修了生たちの今後の活躍を、大いに期待したい。



ずとあきらかた。ここにあげた募集計画のなかには教員、事務職員の力が必要なのは勿論のこと、さらに学生諸君や後援会会員の皆様等、本学に關

ないものが少なくない。全係するすべての方々の協力をお願いする次第である。

入試種別・志願者数の推移



(教務課：入試室)

鈴木《工業技術博物館》前館長の
最終講義と慰労の宴が開催される

1月29日、本学の誇る工業技術博物館の整備充実に尽力された、前館長・鈴木

昭宏教授の最終講義と慰労の宴が開催された。昨



ゼミの学生代表からの花束贈呈

定年を迎えられたが、引き続き講義を担われ、また博物館運営引継の諸業務などもあつて、異例の一年仲ばしの行事となつたわけだ。講義は《日本の工作機械工業の展開課程》と題され、幕末から日露戦線までの第一期に始まり、現今のネットワークシステム時代の第二期に及ぶ熟練の入ったもので、さすが当分の碩学ならではの内容だった。同名義教授の今後のご健勝を、深く祈る。

例えは、《ペーパレス》などとかカタカナで書くと、いかにも先端的なもののように見えますが、それは、旧世代が折り込み広告の裏紙をメモ用紙にしていたこと別物ではありませぬ。「おばあちゃん」の知恵袋「それは「地球を救う」壮大なプロジェクトの第一歩なのです。

平成14年度 学生募集活動計画

活動名称	目標・内容	実施時期
工業高校訪問	工業高校を対象として大学情報、入試情報を提供	4月～5月
	後援会地域別懇談会の前後にも行なう	8月～9月
入試説明会	工業高校の進路指導担当教員を対象として各地の会場で入試説明会を開催	6月
普通高校訪問	近県所在の普通校、商業校、総合高校などを訪問し、大学情報、入試情報を提供	7月～8月
教育懇談会	本学卒業生の工業高校教員を対象に情報交換や懇談を通して関係を深める	随時
オープンキャンパス	高校生、ご父母、高校教員に大学キャンパスを開放して、大学体験の機会や情報を提供	7月、8月 10月
会場相談会	高校生、ご父母、高校の先生方を対象に各地会場で開催される入試相談会に参加	随時
高校内進学ガイダンス	高校生やご父母を対象に、高校内で実施される進学ガイダンスに参加	随時
高校への出張授業	高校に本学教員が出向き授業を行ない、大学の教育・研究内容を知ってもらう	随時
大学見学	高校単位、個人での大学見学者への説明と見学案内	随時
ダイレクトメール送付	資料請求者など本学への接点者に折りに触れDMを送付し、大学理解を深めてもらう	随時

編集後記

新緑がまばゆい時期になり、今年もまた、本学は、喜びのうちに、千人以上の若者を世に出すことができた。きょう、国際環境施設 TISO 4001 の取得後、さらに実験施設を対象とした規格取得を目指していることは、ご案内の通りです。これまでも、日本の環境教育のパイロット的役割を果たしてきた本学ですが、そもそも「環境」を考へるとは、どういふことでしょうか。「エコロジ」という語の「エコ」は、ギリシア語の「オイコス」(家、あるいは家とをとりまく環境)を語源としています。とかく身近でない印象を与えがちな「エコロジ」なる語の語源は、環境を考へる第一歩が家政、つまり、日常の家庭生活の処理にあることを教えてくれます。例えは、「ペーパレス」などとかカタカナで書くと、いかにも先端的なもののように見えますが、それは、旧世代が折り込み広告の裏紙をメモ用紙にしていたこと別物ではありませぬ。「おばあちゃん」の知恵袋「それは「地球を救う」壮大なプロジェクトの第一歩なのです。

大学工学部応用化学科卒業
◆宮本 智子 (教務部教務課 昭和五十二年十月、二十七日生まれ。平成十三年三月玉川大学工学部農科卒業。二月一日付)

大学工学部応用化学科卒業
◆川村 真司 (総務部総務課 昭和五十二年三月三十一日生まれ。平成十三年三月福島大学経済学部卒業。三月三十一日付)

大学工学部応用化学科卒業
◆松田 郁夫 (情報部 理工科 櫻井 朝雄 (企画室)